

鶴群

令和4年3月吉日発行

釧路市タンチョウ鶴愛護会

〒085-0245

釧路市阿寒町上阿寒 23 線 38 番地

釧路湿原美術館内

Tel 0154-66-1117 Fax 0154-66-1121

(題字：加藤 秋霜氏) < 皇太子殿下御歌碑より抜粋 >



2月ツルセンタービオトープにて

土赤君

釧路市タンチョウ鶴愛護会 副会長 大山 昇



昭和 37 年 4 月、7 年間勤務した阿寒小学校を去り、同じ町内の阿寒中学校に転勤になった。

その時ツルクラブを担当していたのが、伊藤先生で、先生と私は同じ阿寒小学校で勤務し、教員住宅で寝食を共にしたこともあり、公私共々大変お世話になった方でもあったので、自然にその仕事を手伝うことになった。

当時のツルクラブは熱心で、毎日のように鶴の観察を続け、又給餌活動を行い、それをツルの日記に記録した。

そして、その成果を「日本の鶴」という本にまとめて公表した。自然の鶴に関する関心や情報の少ない時代だっただけに、中学生の鶴に対する純粋な愛情や餌不足に悩む保護活動は多くの人々に感銘を与え、鶴の愛護思想の啓蒙に役立ったと思われる。

当時の中学生で現在阿寒町西高台で酪農を営んでいる土赤君がいる。彼の鶴に対する接し方はいつも感心させられるのでここで紹介したいと思う。

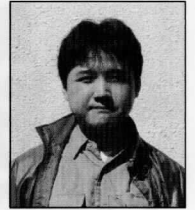
阿寒町の市街中心地から北へ約 3 キロ離れた西高台地区に土赤栄司君の自宅がある。彼が物心ついた頃からタンチョウが来ており、ごく自然にタンチョウとの触れ合いが生まれた。今では家族の一員でもあるように、勝手に牛舎の中まで入ってきてバケツの中に入っているトウモロコシを食べている。他の給餌場のように、外に出て草地の雪の中にまいたりはない。ただ隅の方にバケツに入れたトウモロコシを置いておくだけであり、ツルはバケツの中から自由にいつでも食べることができるようにしている。

このように土赤君はタンチョウを家族の一員のように扱っており、この自由な関係がここまで長く続いているものとうなずけるような気がする。ここに来ている 2 羽のつがいは毎年同じつがいで、子育ても上手で必ず子連れである。年によって幼鳥 2 羽連れてきたこともある。数年前に来た幼鳥には足環がついており、221 号という数字が書いてあり、標茶町で生まれたツルであるということがわかった。

彼の家はタンチョウのねぐらの近くにあるので、その心配はそのねぐらのツルを撮影しようとして訪れる多くのカメラマンのことである。このままではタンチョウが安心して眠るのが出来るかどうかであり、問題解決の方法を考えなければと話していた。本当に彼は心からタンチョウの事を考えており、日常生活の中でそれを実践している人物でもあると考えている。

鶴だより

釧路市動物園 ツル担当 学芸専門員
吉野 智生



タンチョウの越冬

昨年度より雪があるように見えますが、例年より遅い冷え込みでした。年明けに何度かまとまった雪が降りましたが、気温が上がってしまいとけてしまうこともありました。なんともちぐはぐな印象の冬です。給餌場にタンチョウが増えてきたのは12月半ばを過ぎてからで、全体の数も少なめです。タンチョウたちはどこで何をしているのか気になるところです。

冬の初めごろ、普段見て回るタンチョウの生息地を巡ってみました。いつもは凍ってしまう小さい河川や地面が凍っていないのが目につきました。川も地面も凍っておらず、遅い時期まで餌がとれる場所、休むところがあったのだと思います。タンチョウに限らず、多くの鳥類は冬が近づくと縄張りのある繁殖地を離れ、餌や安全な場所を求めて越冬地へと移動します。長距離の移動にはエネルギーが必要ですし、道中には危険もありますが、彼らは生きるために移動をします。

一方で、できるだけリスクやエネルギー消費を低くし、移動距離を減らしたいという考えもあるかもしれません。例えばこの冬、12月途中まで道北に留まっていた個体や、別海、根室方面でタンチョウの大きな群れが確認されていますし、毎年給餌場で確認されてきた標識付きタンチョウが、少し離れた牧場を利用して給餌場に来ていないこともわかっています。



給餌場にきたタンチョウの群れ

このように移動開始が遅かったり、越冬場所を変えたりした個体がいるようです。また繁殖期に大雨が降ったり河川が増水したりして繁殖失敗したつがいが多かった可能性が考えられています。

一方で調査時にタンチョウが見つかるかどうかは、天候、気温などの気象条件や、調査時間、人員配置などの組み立てにも左右されます。人がまだ見つけていない越冬場所があるかもしれませんし、調査のタイミングが合わなかっただけかもしれません。

様々な要因が絡まっているので、温暖化だとか数が減ったとか増えたとか、そう単純な話でもありません。まだまだ謎の多い鳥で、それもタンチョウの魅力の一つなのかもしれません。

タンチョウ 道北で交雑か

日本では道内だけで繁殖する国の特別天然記念物タンチョウが、ユーラシア大陸から飛来した個体とつがいをつくり、宗谷管内豊富町のサロベツ原野で繁殖した可能性があることが、酪農学園大の寺岡宏樹教授(58)らの調査で分かった。国内のタンチョウは道内の群れの中だけで繁殖を繰り返し、遺伝的に異なる大陸からの個体との交雑は確認されていなかった。今回、北海道と大陸の個体群同士による営巣を初確認した。交雑で遺伝的多様性が増せば感染症への抵抗力が高まり、絶滅リスクの軽減も期待される。



NPO法人サロベツ・エコネットワークの長谷部真事務局長(45)が2018年7月、サロベツ原野にあった巣から、羽根と未受精卵とみられる卵を発見。寺岡教授が羽根4枚の遺伝子解析を行い、ミトコンドリアDNAの塩基

配列を調べた結果、うち2枚が、過去の分析で韓国で見つかった個体と同じ配列を持つ「ユーラシア大陸個体群」の雄のものと分かった。残る2枚は、道内に生息する「北海道個体群」の雌だった。

寺岡教授は1878年(明治11年)に捕獲された剥製を含め、国内約400羽の遺伝子解析を行っており、大陸個体群の雄と同じ塩基配列の野生個体は国内にはなく、「大陸から飛来し、営巣したもので間違いはない」としている。タンチョウは通常2個産卵するため、寺岡教授は「見つかった未受精卵とみられる卵以外のもう一つは、無事孵化した可能性が高い」と語る。



①豊富町で見つかったタンチョウの巣内の卵と羽根。遺伝子解析の結果、大陸個体群と北海道個体群による営巣と確認された(長谷部真事務局長提供) ②求愛ダンスを披露するタンチョウのつがい ③2020年2月、釧路市阿寒町のタンチョウ観察センター

酪農学園大など 大陸の個体との営巣確認

現在は道内で1900羽まで増えた一方、少数の個体から繁殖させたため、9割の個体と同じ塩基配列を持ち、遺伝的多様性が乏しい。このため、感染症などの病気への抵抗力が弱い懸念があった。

ツルを研究するNPO法人タンチョウ保護研究グループ(釧路市)の百瀬邦和理事長(70)は、イスラエルで昨年12月、鳥インフルエンザによりクロツルが約5千羽死亡したとの報告があったと指摘。百瀬理事長は「餌場に密集するタンチョウなら絶滅するレベル。病気のまん延を防ぐには遺伝的な多様性が必要」と話し、大陸個体群との交雑を歓迎する。寺岡教授は「今後も大陸から飛来した個体が繁殖する可能性があり、現地での観察や遺伝子解析で証明したい」と話した。

調査結果をまとめた論文は、日本獣医学会機関誌のウェブ版に昨年12月28日付で公開された。(内山岳志)

釧路市立阿寒中学校 鶴特別委員会 の活動

鶴特別委員会は、3年生2名、2年生2名、1年生2名の計6名が1年間の任期を通じてタンチョウの保護活動、鶴を通じた交流活動等を行っています。冬季はグラウンドに「にお」を設置、デントコーンの給餌を行うことで毎日のようにタンチョウが来校します。鶴特別委員会の活動に意義を感じ、中学校3年間を通じて「鶴特別委員会」に所属する生徒も多いです。また、1・2年生の全生徒で毎年12月に行われる「タンチョウ一斉調査」にも協力しています。

12月末より阿寒町地域おこし協力隊の方々の協力で「Instagram」を解説しました。とても身近にタンチョウがいる学校、タンチョウを保護する「委員会活動」等々…、貴重な活動をたくさんの方々に知っていただきたいです。

年間活動予定

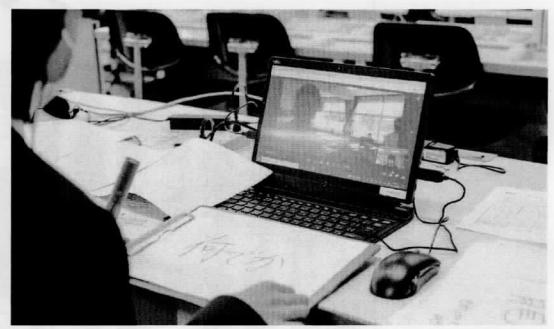
4月	鶴交流に向けて	10月	エサづくり
5月	↓	11月	↓
6月	デントコーン育成	12月	にお設置 インスタグラム開設
7月	↓	1月	給餌活動 インスタグラム投稿
8月	鶴交流	2月	↓ ↓
9月		3月	

鶴交流の様子

8月24日に鹿児島県出水市の鶴荘学園と高尾野中学校をオンラインで結び、互いの活動の交流を行いました。出水市はナベヅル・マナヅル・クロヅルが飛来し両校が保護活動を行っています。例年は阿寒中学校を会場に交流を行っていますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン交流となりました。

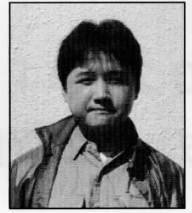
阿寒中学校活動紹介中、最後にあった委員長の言葉を紹介します。「この活動を通してタンチョウの美しさや地域の人たちの温かさ、自然を守ることの大切さを学び、さらにタンチョウの里阿寒に誇りを持つようになった」。

今後も阿寒中学校「鶴特別委員会」へのご支援をよろしくお願いいたします



<タンチョウのことを知ろう>

釧路市動物園 ツル担当 学芸専門員
吉野 智生



タンチョウと年齢

気づけば冬も半ばを過ぎ、タンチョウのダンスや鳴き交わしがよく見られるようになってきました。タンチョウの繁殖期がそろそろ始まります。

皆様ご存じの通り、タンチョウは幼鳥のうち茶色の羽に覆われ、1歳になるころからだんだんと茶色と白から白と黒の羽衣に変わっていきます。1歳半を超すと、外見上ほぼ成鳥と同じようになりますが、風切り羽や雨覆の先端が黒いので、翼を広げたときなどに区別することができます。この時期を亜成鳥と呼んでいます。この黒い部分は3歳、正確には換羽した後に無くなるので、これ以降は羽の色で年齢が区別できなくなり、成鳥と呼ばれます。

基本的にタンチョウがつがいを組んで繁殖を始めるのは3歳以降です。ただ3歳になったら必ずというわけでもなく、なかなかつがいにならない（なれない？）

個体もありますし、逆に3歳未満で繁殖行動を取ったという事例も少数知られています。また、つがいになったらすぐ次の春に巣を作って卵を産むかという、必ずしもそうではありません。つがいごとに、あるいは個体ごとに、それぞれの事情があるようです。



雪の中のルビー

よく、タンチョウは人間に直すと何歳ですかと聞かれることがあります。これはなかなか難しい問いで、タンチョウは3歳で成鳥ですから、ではこれが人間でいう成人（今は18歳かな）かという、これは便宜上ですので違うと思います。性成熟と考えると10～12歳くらいとなりますが、上記に従って仮にタンチョウの1歳を人間の4歳とすると、例えば30歳のタンチョウは120歳に換算されますし、現在飼育下最高齢のマリは今度の春で46歳なので、184歳になってしまい、ギネス級どころか軽く飛び越えて聖書クラスです。それはちょっと想像もつきませんし、そも鳥と人間は同じようなペースで成長、老化するわけではありません。なので、あえて言うのであれば3歳から大人で、30歳くらいで割といいお歳ですよと、そのくらいになりますね。でも30歳過ぎて繁殖している個体もいますので、なかなか一口に定義できません。

ツルセンターで飼育しているメスのルビーは、この春で2歳になります。ダンスの真似事や、他のつがいにつられて鳴くことも増えてきました。成鳥になるにはもう少しですが、今後、つがいの形成を目指して飼育していくこととなります。うまく相手を意識してくれることを願っています。

〈 北海道阿寒高等学校の活動 〉

2021年11月10日(水)阿寒高等学校の地域連携の出前授業として釧路市タンチョウ鶴愛護会の吉田守人会長が、愛護会の歴史などの授業を行いました。



出前授業の様子

生徒さんの感想

Oさん

むかしタンチョウのことが載った新聞をまとめて見せてもらったり、実際にお話などがきけて貴重な時間になった。またお話人文字コンテストのVTRも見せてもらって優勝していてすごいとおもった。タンチョウ鶴愛護会のことも知れて勉強になった。

Sさん

タンチョウ鶴のことは中学校の頃から知っていたが、こんなに昔からの絆や愛などを教えてもらえたともいえました。タンチョウ鶴の人文字コンテストなどむかしみんなで協力していたのだらうと思えて感動しました！

Mさん

人文字コンテストで、地域の方が全員で協力し、とても感動するような作品でした。タンチョウ鶴が全滅するかもしれない状態から回復させたのは本当にすごかったし、これからも後の世代の人に引き継いでいきたいですね。今回は貴重なはなしをありがとうございました。

Uさん

VTRの人文字は本当に凄かったと思います。動きも自然で良かったと思います。天然記念物がこんな身近で見れるだけでもすごいと前から思っていましたやっぱりタンチョウ鶴はとてもきれいでした。

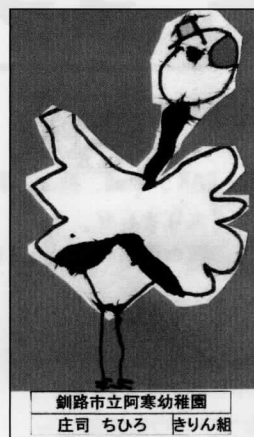
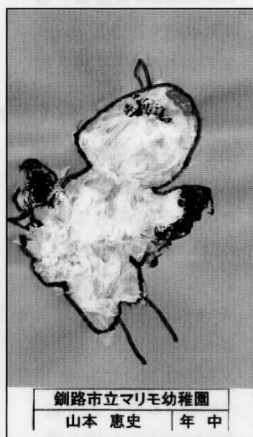
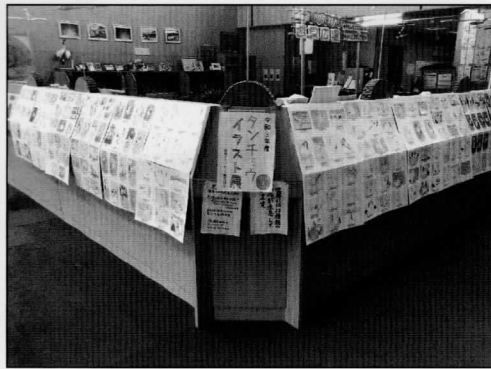
Nさん

人文字コンテストの話聞いて参加しているのは初めて聞きました。中学は違うところでしたが、知りたいと思っていたのでとても良い機会でした。

とても話がききやすくとても知りたいと思いました。自分で調べてもっと詳しくなろうと思いました。

第20回 タンチョウイラスト展終了しました

2021年12月26日(日)～2022年2月24日(木) 阿寒国際ツルセンターホールにて展示



北海道新聞(夕刊)

2022年(令和4年)1月26日(水曜日)

タンチョウ 切手に舞う

日本郵便道支社がオリジナルフレーム

84円切手10枚1シートで1400円。900シート限定で、釧路管内の全郵便局や札幌市内の郵便局など計84局で21日から販売している。阿寒国際ツルセンターで開くフォトコンテストの写真を採用し、つがいや幼鳥の姿もある。

オリジナルフレーム切手「湿原の神と呼ばれたタンチョウ」



日本郵便北海道支社はオリジナルフレーム切手「湿原の神」と呼ばれたタンチョウ」を発売した。国の天然記念物で、釧路市など道東の湿原を中心に生息するタンチョウの優雅な姿を題材としている。(相川康暁)

釧路東郵便局の佐藤太一局長らが同日、釧路市役所を訪問。蝦名大也市長と、制作に協力した阿寒国際ツルセンターの河瀬幸館長に切手1シートずつを贈った。蝦名市長は「いい写真がそろっている」と喜んだ。

2022年第25回 阿寒丹頂の里鶴クイズ

2022年1月1日13時の飛来数
(快晴・気温 -5.5℃・西北西 4.0m/s・積雪 9cm)

結果発表

61羽

応募総数 930通

(ハガキ 226通、メール・FAX 514通、投函応募 190通)

全ての都道府県から応募がありました。
今年も暖冬で雪が少なく、鶴の飛来が減少し61羽となりました。
ピタリ賞は2名いらっしゃいました。
抽選の結果、北海道釧路市の向谷様が飛翔賞になりました。
たくさんのご応募ありがとうございました！！

—釧路市タンチョウ鶴愛護会—

飛翔賞 「モルト牛セット 10,000円分」

北海道釧路市 向谷 昂瑠 様

賛歌賞 「阿寒ポーク 5,000円分」

大阪府大阪市 奥谷 典子 様 兵庫県洲本市 田中 美沙妃 様
岐阜県飛騨市 中村 俊晴 様 鹿児島県出水市 内村 恭子 様
山口県周防大島町 橋本 理花子 様

乱舞賞 「釧路の特産品 3,000円分」

北海道美幌町 中尾 亘 様 北海道北見市 村中 友美 様 北海道札幌市 石岡 聖子 様
青森県青森市 青木 貴志 様 宮城県石巻市 福野 光子 様 栃木県宇都宮市 西園 多佳子 様
千葉県松戸市 会津 くるみ 様 神奈川県横浜市 後藤 訓子 様 愛知県名古屋市中区 仲西 節男 様
滋賀県大津市 蔭田 博文 様 京都府亀岡市 前田 哲 様 奈良県奈良市 福富 実里 様
福岡県太宰府市 太田 純二 様 鹿児島県霧島市 福永 房世 様 沖縄県那覇市 山本 裕貴 様

楽園賞 「釧路の特産品 1,000円分」

北海道釧路市 柴木 心音 様 北海道釧路市 丹野 美由紀 様 北海道釧路市 菊池 風汰 様
北海道釧路市 鎌田 裕子 様 北海道標茶町 河合 玲那 様 北海道帯広市 岩間 ほか 様
北海道帯広市 梅崎 勝生 様 北海道妹背牛町 関吉 淳 様 北海道札幌市 鈴木 佑季 様
北海道札幌市 江口 洋介 様 宮城県仙台市 堀 順子 様 宮城県名取市 岡部 はるみ 様
岩手県盛岡市 工藤 陽子 様 石川県小松市 宮田 美知代 様 石川県能登町 山下 有香 様
千葉県千葉市 岸田 加奈 様 東京都国分寺市 矢田部 嘉裕 様 愛知県名古屋市中区 牛田 正行 様
愛知県名古屋市 藤田 澄江 様 福井県あわら市 土橋 悠人 様 奈良県田原本町 植 信子 様
大阪府堺市 金 真弓 様 大阪府堺市 堂城 宏美 様 大阪府豊中市 杉原 大貴 様
兵庫県神戸市 佐名木 規夫 様 鳥取県米子市 西村 悠子 様 岡山県岡山市 真鍋 悠理 様
大分県日田市 松本 望 様 宮城県宮崎市 畠中 勝吉 様 鹿児島県始良市 徳元 大佑 様

<頂いたお礼状の一部をご紹介します>

この度は特産品を頂きありがとうございました
とてもうれしく、家族で北海道に思いを馳せながらいただきます!!
コロナが落ちつきましたら旅に行きたいと話しています、お身体には気をつけて。(大分県)

寒さ厳しい折、鶴のお世話をいただきありがとうございます。
さて、この度楽園賞なる賞をいただきありがとうございました。年明けから嬉しい朗報に気持ちがあたたかくなりました。御礼申し上げます。
今年も貴会の皆様方のご活躍とご健幸をお祈り申し上げます(奈良県)

10月末に道の駅スタンプラリーで阿寒の里を訪れた時に何気なく応募した鶴クイズ…応募したことさえ忘れていました。
沢山の美味しい釧路の特産に、大喜びしました！ありがとうございました。
朝早く阿寒に着いたとき、畑でクウクワーと鳴いている鶴の姿が美しく…愛護会の皆様は鶴達の給餌や安全を守って下さっているからこそこの風景が見られるのだなあ…と有難くおもっております。
新年から思いがけないプレゼント!! 良い年になりそうです。(札幌市)

お問い合わせ先

〒085-0245 釧路市阿寒町上阿寒 23-38 釧路市タンチョウ鶴愛護会事務局
TEL 0154-66-1117 ホームページ <http://946tanchou-aigokai.com/>